



仙台市立鶴が丘小学校 学校だより

あおぞら

平成30年7月18日 号外
仙台市泉区鶴が丘1丁目350番地
TEL:022-373-0702
ホームページアドレス
<http://www.sendai-c.ed.jp/~aozora/>

協働型学校評価重点目標：ふわり言葉を進んで使う子供の割合を90%以上にする。

いじめ未然防止のために…

～学校評議員・学校関係者評価委員会より～

先日、7月2日に今年度1回目の学校評議員・学校関係者評価委員会を開催し、授業参観をして子供たちの様子を見ていただいた後に、今年度の学校経営方針や協働型学校評価について説明し、ご意見をいただきました。

また、今回は、いじめの未然防止や対策について、広く意見を求めるため、父母教師会本部役員の皆様にもご出席いただきました。ここでは、いじめに関する話合いについてご紹介いたします。

まず、本校のいじめ防止の取組やいじめへの対応について説明した後、6月11日に実施した「第1回いじめアンケート」の結果について報告しました。

平成30年度 第1回いじめアンケート(6月11日実施)の結果

「4月から今までの間にいじめられたことがありますか。」という質問に「ある。」と回答した児童は5名(6件)。(1年男子1名、2年生男子2名、3年女子1名、5年女子1名)

内容は、「いやなこと(ちくちく言葉)を言われる。」「廊下で、何もしていないのに蹴られた。」「朝の準備をしているときにぶつかってきた。」「遊びに入らないでと言われた。」「児童館へ行くときに、待ってくれずに先に行ってしまった。」「〇〇と親子みたいと悪口を言われた。」でした。すでに関係児童からの聞き取りや事実確認を済ませ、関係児童へ指導すると共に、その結果を保護者へ連絡しました。現在は、被害を訴えた児童を中心に経過を観察中です。今後も「いじめは決して許されない行為である」という強い意識を児童に持たせていけるよう努めてまいります。

<いじめに関するご意見等>

- いじめについては、皆「いじめ」という言葉に敏感になっている。ぴりぴりしている。
- 「いじめを生みやすいクラス」というものが存在するのは事実であろう。そこで、未然防止「いじめを生まない学級・学校作り」に努めることが大切である。
- 「違いを認め合う力」を育てていくことが大切。「弱っている人を支える」のも大切。「家庭内の会話」が減っているのではないか。「ふわふわことば」の使用・定着については、小中連携が必要である。小中連携を図りたい。
- いじめについては、「けんか両成敗」が通用しない時代になった。子供同士は仲直りをして、親同士のコミュニケーション不足が誤解を招くこともある。地域と連携して、子供たちが楽しく生活できるような環境を作っていきたい。
- 「子供の不快感」が、いじめへとつながるのではないか。1年生は、小さいことが多いが、学年が上がるにつれて、内容も重く、陰に隠れていくことが多くなるので警戒が必要である。
- 先生方は、いじめ事案への対応や連絡帳などへの返信等があって、子供たちと接する時間がない。本末転倒である。



※裏面もご覧ください。

○ 問題を起こす子の家庭は、「お金があっても、愛がない」ことが多い。家庭内に問題があるのではないか。(一部の)子供たちは「物足りなさ」「満足していない」と感じている。

親の愛情不足や塾・習い事のストレスが原因で、いじめに走る傾向もある。心の中で葛藤している子供も多いと感じる。子供は、天真爛漫が良い。のびのびと育てるのが良い。

○ 大きいじめはないが、「ちょっとしたこと」が積み重なって「学校に行きたくない」となってしまう。何かあった場合、親はあやまるが、子供は変わらない場合がある。家庭環境が問題。学校は、よく取り組んでいると思う。



○ 家庭での指導方法についても見直す必要があるのかもしれない。子供が変わっていかないと問題はなくならないと思う。子供同士は友達だが、親同士が友達かどうかは不明。親同士がつながることができるようにするためにもPTA活動を充実させていきたい。

○ 言葉遣いが乱暴な子は「いじめ」と受け取られる可能性があることが多い。「いじめ」と受け取られない対応の仕方を考えていかななくてはならないのかと思う。

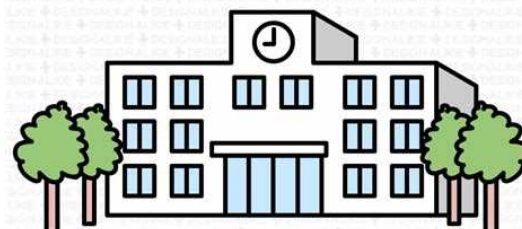
○ 「いじめた」から「全部ダメ」と否定するのではなく、善悪や優しさ・思いやり等について、親子で話し合うキッカケにすればよい。子供は、失敗を重ねながらも正しい方向に成長していく。

○ 家庭で、子供が何でも話せる雰囲気づくりや言葉遣いについて指導したり、声掛けをしたりすることが大切。

○ 「いや」「やだ」等のきつい言い方になってしまうことがある。本人にそのつもりがなくても、言葉が足りないので結果的に相手を傷つけてしまう。本人にそれを気付かせることが大切。一つ一つ教えていくと分かってもらえる。子供の話を「最後まで聞いてやる」親の態度が必要。子供たちには、「自分たちで解決する」力を育てさせたい。

評議員や評価委員、本部役員の皆様から、たくさんの貴重なご意見をいただきました。本校では、今年度も日常の観察や年4回のアンケート等でいじめの早期発見に努めると共に、道徳科の授業や学級活動、児童会活動などを中心に、全ての教育活動を通して「思いやりの気持ち」を育て、命を大切にすることを推進してまいります。保護者・地域の皆様も「チーム鶴が丘小」の一員です。いじめの未然防止に向けて、学校・家庭・地域の連携をさらに深めてまいりたいと考えております。保護者・地域の皆様で、子供たちについてお気づきの点、ご心配な点などがございましたら、速やかにご指摘、ご相談、情報のご提供をくださいますよう、よろしくお願いいたします。

☆いじめ相談窓口……教頭、各担任、いじめ対策担当教諭(二上)、教育相談担当教諭(菅原)、養護教諭(庄司)、スクールカウンセラー(高橋)



※児童生徒・保護者対象

「24時間いじめ相談専用電話」

☎022-265-2455

「24時間子供SOSダイヤル」

☎0120-0-78310

(なやみ言おう)



©dak